

(様式1)

令和4年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(東陽中)学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長から学校グランドデザインや学校経営構想をもとに、「めざす生徒像」と「本校の教育課題」、キャリア教育の3つの視点との関連性等について、詳細な説明を受けた。現状の子供たちの立場に合った基本方針であることや、これから目指す所、身につけるべき資質が描かれており、一定の理解が図られた。
- 生徒に直接かかわりのある通学靴等の規制緩和や登校時間の繰り下げなどの校則の見直しに関して、複数の委員から発言があった。時代の進展に対応した規則等の見直しは必要であるが、生徒や家庭への目配りが必要であろうとの意見が多く出された。学校、家庭、地域が一緒になって子供たちの学びや育ちを手助けしていけるように、学校運営協議会が役立てるような体制を整えていきたい。
- 生徒の学習面について、全国学力学習状況調査の分析から、よい点悪い点を委員にもよく分かるように示していただいた。課題が見えているということは、問題の解決が図りやすいということになるため、非常によいと思う。学校運営の基本方針と実際の指導のつながりを意識しながら、学習面でも学校運営協議会が子どもたちの助けになっていくために何ができるのか、今後、具体的な方策を熟議していく必要があると思う。
- 初年度ということもあり、時間も情報も少なく、熟議と呼べるまでには至っていない。
- 「めざす生徒像」とキャリア教育の関係については委員の理解が必ずしも十分でない。熟議が不十分な点もあるため、来年度も引き続き協議を継続していく。熟議の内容を充実させるためにも、分からないことは積極的に質問し、委員全員で学んでいきたい。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

- 2回目の協議会では、前回持ち越しとなった本年度の学校経営構想について全会一致で了承した後、担当者から校則の見直しについて説明があり、それを踏まえそれぞれの委員が活発に意見を述べた。学校の取組について理解を深めるとともに委員同士の一体感を醸成する機会となった。
- 学校の説明により、生徒が自ら考えて学校(社会)に変革をもたらすような取組が、計画的に実施されていることがわかった。保護者や地域住民としては、部活動や制服の見直し、費用対効果を考えた行事の精選等、できる範囲でコストカットを図り、学校や保護者の負担を軽減すべきという視点もある。このような多面的な思考で、学校運営を支えていくような熟議が必要だと考える。
- コロナ禍で、委員の学校行事への参加が少なくなり、また、中学生の地域での活動も制限され、現在の中学生の様子を直接見る機会が減ってしまった。生徒の実態がつかめず、また、地域が直接中学生と関わる活動もないため、学校の運営に資する活動について地域が協働できるアイデアを出すことができなかった。今後熟議を充実させる手立てを講じていきたい。
- こちらも評価項目1同様に、時間、情報が少なく熟議には至っていない。我々が関わることができること、参加できることを探りながら話し合いをしたが、現段階では具体的なことはできていない。
- 一年目ということもあり、まだすべてが手探り状態だが、直近の課題・未来の課題が見えてきた。CSの役割、自分の役割のビジョンができた。

### <評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- まずは学校の基本方針を深く理解すること、さらに「はままつの教育」を理解することが大事であると感じている。そして、これからの社会に必要な資質・能力を目指す子供の姿を共有し、学校・保護者・地域が一体となって子供たちの成長を支えていけるよう地域としてできる事を考えていきたい。次年度は地域として学校に期待することも伝えつつ、熟議を充実させ、よりよい学校づくりに貢献していきたい。
- 子供たちが今何に困っているのか、子供と関わる親・家庭・家族・地域・教職員が何に困っているのかを聞き、自分ができることに全力で取り組んでいきたい。CSのしっかりとした組織をつくり、役割分担して取り組んでいきたい。
- これまでの協議会を振り返り、以下の課題があると考えられる。これらについて、年度内に委員で確認し、新年度はよりよいスタートが切れるようにしたい。
  - ・話し合う上で「教育理念」などの教育に関する様々な用語は委員にとって馴染みにくく、理解が進まないものが多い。そのため委員からの意見や質問は施設・設備や校則・ルールなど目に見えるもの、具体的なものに終始しがちである。委員一人一人が教育用語などについて主体的に学ぼうとする姿勢が求められるが、理解を助けるための資料を提示するなどの工夫が必要である。
  - ・「学校の教育を支援すること」に主眼をおき、活動を進めることとする。学校側の取組を尊重しながら、メンバーとして話し合いをしていきたい。
  - ・学校支援コーディネーターが参加すれば、キャリア教育の具体的な活動も見えてくると考えられる。学校支援コーディネーターの人選を進める。
  - ・例えば、地域で子供たちを見ていて、「学校には自転車運転の交通マナー教育を徹底してほしい。」と感じることがある。子供たちの命と未来を守るために、学校運営協議会に何ができるのかを考えていかななくてはならない。学校の教育を支援する取組や場面について洗い出しを行い、地域の人間として協力していきけることはないか、教育活動としてどんなことが適正か、さらに話し合いを進め、具体的案を出していきたい。
  - ・生徒の実態として、おとなしいばかりではいけないと思うので、もう少し活発になるにはどうしたらよいか、考えていきたい。
  - ・もう少し保護者世代の意見を取り入れる場をつくっていきたい。